



発行所
公益財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 岸 谷 義 雄
題字 井 戸 知 事

無事故へと
気持ち集中
はっけよい

平成二七年度 日本消防協会定例表彰式

平成二八年三月八日(火)
日本消防会館ニッショーホー
ルにて、第六八回日本消防協
会定例表彰式が挙行されまし

た。
会場には、全国から出席し
た受章関係者や来賓の方々が
参列し、特別表彰「まとい」、

特別功労章及び表彰旗以下代
表受章者に対し、秋本日本消
防協会会長から受章団体及び個
人へ表彰状等が授与されまし
た。

本県における受章者(団
体)は以下のとおりです。



式典の様子

表彰旗(一団)
小野市消防団

竿頭綬(三団)
神戸市中央消防団
神戸市西消防団
芦屋市消防団

功績章(四二名)

- 神戸市灘消防団 分団長 中本 敏彦
- 神戸市北消防団 副団長 辻井 重市
- 神戸市西消防団 副団長 中村 勝俊
- 姫路市網干消防団 副団長 三輪 敏之
- 姫路市夢前町消防団 副団長 林 正明
- 姫路市香寺町消防団 副団長 清瀬 英之
- 尼崎市消防団 副団長 前田 昌昭
- 明石市消防団 分団長 後藤 英文

- 西宮市消防団 分団長 林 靖博
- 洲本市消防団 分団長 巽 明彦
- 芦屋市消防団 分団長 馬場 重行
- 伊丹市消防団 分団長 石橋 宏己
- 相生市消防団 副団長 三木 秀明
- 豊岡市豊岡消防団 副団長 太田 克己
- 加古川市消防団 分団長 宮永 卓郎
- 赤穂市消防団 分団長 栗井 俊明
- 西脇市消防団 分団長 藤原 秀樹
- 宝塚市消防団 分団長 和田 淳一
- 三木市消防団 副団長 中富 聡
- 高砂市消防団 分団長 三好 啓一
- 川西市消防団 分団長 古谷 茂政
- 小野市消防団 分団長 田中 孝和
- 三田市消防団 分団長 金光 誠
- 加西市消防団 分団長 堀尾 孝志
- 篠山市消防団 副団長 田中 一裕
- 養父市消防団 副団長 橋本 信之
- 丹波市消防団 副団長 原田 恵伸
- 南あわじ市消防団 副団長 藤原 広規
- 南あわじ市消防団 副団長 中川 順博
- 朝来市消防団 副団長 浅田 郁雄
- 淡路市消防団 副団長 上田 富弘
- 宍粟市消防団 副団長 片山 善晴

- たつの市消防団 分団長 谷口 明義
- 加東市消防団 分団長 横山 和史
- 猪名川町消防団 副団長 仁部 徹
- 多可町消防団 副団長 遠藤 泰尚
- 稲美町消防団 分団長 古谷 悟
- 市川町消防団 副団長 山下 弘昭
- 太子町消防団 副団長 大西 康
- 上郡町消防団 副団長 長尾 吉弘
- 佐用町消防団 分団長 西田 喜則
- 香美町消防団 副団長 森 正義
- 神戸市北消防団 分団長 奥野 直人
- 神戸市北消防団 副団長 西 繁孝
- 神戸市長田消防団 副団長 住本 雅弘
- 神戸市須磨消防団 副団長 元部 雅由
- 神戸市垂水消防団 副団長 八木 耕一
- 神戸市西消防団 副団長 吉川 茂紀
- 神戸市西消防団 部長 加藤 紀之
- 神戸市水上消防団 分団長 丸一 光則
- 姫路市姫路東消防団 分団長 加納 道廣
- 姫路市姫路東消防団 分団長 北川 公一
- 姫路市姫路東消防団 分団長 山口 明彦
- 姫路市姫路西消防団 分団長 北村 晋策
- 姫路市飾磨消防団 分団長 正木 敏博

- 姫路市飾磨消防団 分団長 安原 嘉男
- 姫路市家島町消防団 副団長 中村 國彦
- 尼崎市消防団 副団長 上岡 良照
- 尼崎市消防団 副団長 向井 貞雄
- 明石市消防団 副団長 濱田 辰生
- 明石市消防団 副団長 板倉 龍雄
- 西宮市消防団 副団長 新 元成
- 西宮市消防団 副団長 秋山 清重
- 洲本市消防団 副団長 増見 昌之
- 洲本市消防団 副団長 田淵 真大
- 伊丹市消防団 副団長 水原 雅和
- 相生市消防団 副団長 廣瀬 茂雄
- 豊岡市城崎消防団 副団長 神谷 俊彰
- 豊岡市竹野消防団 副団長 松岡 喜久雄
- 豊岡市日高消防団 副団長 竹中 誠
- 豊岡市出石消防団 副団長 谷原 範昭
- 豊岡市但東消防団 副団長 大橋 正嗣
- 加古川市消防団 副団長 鎌田 光男
- 加古川市消防団 副団長 長谷川 敏昭
- 加古川市消防団 副団長 田中 幸夫
- 赤穂市消防団 副団長 富田 義則
- 西脇市消防団 副団長 安藤 智基
- 西脇市消防団 副団長 池原 良一

- 宝塚市消防団 分団長 小池 宏幸
- 三木市消防団 分団長 常深 優
- 三木市消防団 副団長 谷 吉博
- 三木市消防団 副団長 田中 祥裕
- 高砂市消防団 副団長 石原 勝広
- 高砂市消防団 副団長 松下 和雄
- 川西市消防団 副団長 羽馬 圭一
- 小野市消防団 副団長 長尾 夕香里
- 小野市消防団 副団長 吉田 泰之
- 三田市消防団 副団長 三宅 正之
- 三田市消防団 副団長 竹谷 正一
- 加西市消防団 副団長 中植 良一
- 加西市消防団 副団長 本玉 真也
- 篠山市消防団 副団長 上田 義博
- 篠山市消防団 副団長 上田 将也
- 篠山市消防団 副団長 澤 智明
- 養父市消防団 副団長 田中 慎二
- 養父市消防団 副団長 安井 卓己
- 養父市消防団 副団長 米田 光志
- 丹波市消防団 副団長 待場 剛
- 丹波市消防団 副団長 長澤 幸雄
- 丹波市消防団 副団長 酒井 義行
- 丹波市消防団 副団長 荻野 浩仁
- 丹波市消防団 副団長 足立 晃彦

南あわじ市消防団 副団長 高山 明	南あわじ市消防団 副団長 中村 茂弘	南あわじ市消防団 副団長 馬野 純次	南あわじ市消防団 分団長 平井 一也	南あわじ市消防団 分団長 高田 広士	朝来市消防団 副団長 佐々木 貴幸	朝来市消防団 分団長 竹村 洋二	淡路市消防団 副団長 西濱 克己	淡路市消防団 分団長 近藤 忠継	淡路市消防団 分団長 大木 隆司	淡路市消防団 分団長 森田 修司	宍粟市消防団 副団長 阿曾 和史	宍粟市消防団 副団長 志水 喜博	宍粟市消防団 分団長 鳥羽 正則	宍粟市消防団 分団長 長井 達己	たつの市消防団 分団長 石井 章夫	たつの市消防団 分団長 惟康 裕史	たつの市消防団 分団長 北川 裕一	加東市消防団 分団長 大畑 勝則	加東市消防団 分団長 三村 圭介	加東市消防団 分団長 田中 信悟	猪名川町消防団 副団長 井上 明広	多可町消防団 分団長 藤本 典久	播磨町消防団 副団長 八木 研二																	
稲美町消防団 副分団長 大山 喜久雄	稲美町消防団 副分団長 井澤 潤次朗	市川町消防団 副団長 尾上 智志	神河町消防団 副団長 玉田 智明	福崎町消防団 副団長 入江 聡	福崎町消防団 副団長 埴岡 久二	福崎町消防団 副団長 城谷 博紀	太子町消防団 副団長 小寺 文雄	上郡町消防団 副団長 安西 泰輝	佐用町消防団 副団長 大前 良之	佐用町消防団 副団長 中山 彰	佐用町消防団 副団長 野村 眞也	香美町消防団 副団長 今西 康喜	香美町消防団 副団長 古岡 恵祐	新温泉町消防団 分団長 山村 亨	新温泉町消防団 分団長 坂本 良治	神戸市灘消防団 副分団長 下西 直子	養父市消防団 副分団長 岸田 明美	勤続章(二一〇名)				神戸市中央消防団 副分団長 粟田 耕太郎	神戸市兵庫消防団 副分団長 山崎 基治	神戸市北消防団 副団長 流田 時夫	〃 副団長 平間 剛	〃 副団長 峯吉 宏一														
井阪 道信	橋本 謙二	高田 雅治	鳥井 良則	萩 利志生	前田 雅典	柴田 昌明	棘木 誠	安井 良平	馬場 文雄	北野 孝二	中谷 進	池上 元啓	廣 治幸	蘆間 英明	南 徹	飯尾 茂	中村 勝俊	柳瀬 勝	井口 博文	榎藤 善範	上月 浩一	二星 隆嗣	森田 弘	久戸 富雄	前田 大伸	三木 生也	三木 常男	三木 芳宣	三木 啓嗣	土居 教宏	梅崎 和也	川崎 博光	金田 隆行	香山 重樹	宗則 守生	竹田 雅一	中塚 幸伸			
桑原 厚生	宮本 昌明	木村 成利	仁野 東一	佐田 純平	當房 義行	森松 孝博	前田 篤夫	松井 俊也	神足 幸男	堀田 健一	西海 仁司	鈴木 良由紀	森本 安雄	土井 博夫	荒内 浩治	阪本 徹雄	石埜 正之	西尾 正高	物 孝典	大塚 善平	西尾 武志	谷垣 剛	武田 浩昭	稲葉 保義	山下 直樹	大宮 義弘	俣 優	長谷 基弘	久保 善一	長屋 孝裕	射延 敏昭	山本 晃	竹平 元則	谷川 悟	濱田 史郎	中條 泰彦	清水 浩二	山島 正彦	中本 清司	和田 和人
岩見 佳弘	國津 豊一	春日 浩二	増田 淳一	乾 哲郎	野田 満	荻野 繁	小西 利明	山口 馨	上中 淳	山崎 一正	田中 新吾	田畑 幸生	村山 壽規	西山 浩二	加賀野 宏之	山田 倫義	宮林 修	矢野 國彦	西垣 勝吉	橋本 信之	中島 英幸	村上 洋一	谷口 広行	谷口 昌吾	米田 光志	山口 正市	小畑 義明	西谷 俊之	西村 康夫	田畑 徹	奥藤 進	美濃 靖彦	高藤 勝弘	片岡 伸介	森 吉秀	森 二兵	森 健至	下原 涉	小茂池 証和	平 龍二
志水 金一	小椋 安博	西田 護	中井 稔	小池 毅彦	森崎 龍也	柿谷 龍生	吉川 維受	柴原 泉	玉田 秀一	山本 哲也	藤浦 克昭	西本 秀雄	野木 良彦	吉田 耕治	中本 有馬	本岡 利行	岡野 晃	井上 祥一	加古原 正幸	田中 裕紀夫	服部 恒久	森下 敏昭	春名 秀次	磯田 啓介	村上 亮典	山根 勝美	藤井 伸也	古岡 眞己	小林 康幸	武田 幸夫	岸本 義行	前田 正明	山本 司	宮崎 清	角田 和寿	坂本 勝美	井上 昭二	吉野 松樹	岡田 款雄	

平成二七年度消防庁長官表彰 県下三消防機関二二〇名が受章

平成二八年三月九日(水)、平成二七年度消防庁長官表彰式が日本消防会館内ニッショーホールにおいて盛大に執り行われました。

消防庁長官からの式辞に続き、長官から各受章者代表に表彰旗等が伝達されました。その後、日本消防協会会長及び全国消防長協会会長から祝辞、受章者代表者謝辞の後、閉会しました。

また、受章者の方々は午後から皇居を参観されました。

県下の受章機関、受章者は次のとおりです。

(敬称略・名簿順)

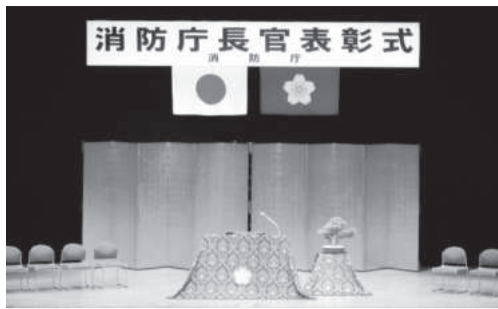
表彰旗

神戸市須磨消防団

竿頭綬

洲本市消防団

豊岡市豊岡消防団



式典の様子

功労章 八名

- 加古川市消防本部 消防正監 舛賀 文博
- 神戸市消防局 消防監 東 洋昭
- 神戸市消防局 消防監 波方 宏彰
- 加古川市消防本部 消防監 三柳 光彰
- 淡路市消防団 団長 魚住 幸市
- 豊岡市竹野消防団 団長 仲治 義信
- 豊岡市城崎消防団 団長 西浦 博
- 猪名川町消防団 団長 安井 一弘
- 北はりま消防本部 消防監 上田 昌善
- 加古川市消防本部 消防監 北本 善一
- 北はりま消防本部 消防監 小西 優司
- 加古川市消防本部 消防監 長谷川 雅士
- 北はりま消防本部 消防監 藤原 正勝
- 姫路市消防局 消防監 堀川 浩司
- 豊岡市消防本部 消防司令長 伊藤 忠明
- 伊丹市消防局 消防司令長 國尾 晃章
- 神戸市消防局 消防司令長 熊田 晃久
- 西宮市消防局 消防司令長 佐藤 浩二
- 神戸市消防局 消防司令長 新谷 孝
- 北はりま消防本部 消防司令長 谷 正之
- 神戸市消防局 消防司令長 丹後 利一
- 三田市消防本部 消防司令長 仲田 悟
- 明石市消防本部 消防司令長 八坂 康弘
- 淡路広域消防事務組合 消防本部 樋口 安明
- 川西市消防本部 消防司令長 福田 保
- 西はりま消防本部 消防司令長 藤原 久生
- 豊岡市消防本部 消防司令長 前田 義孝
- 赤穂市消防本部 消防司令長 松本 守生
- 明石市消防本部 消防司令長 敷本 宏幸
- 宝塚市消防本部 消防司令長 吉田 徹治
- 伊丹市消防局 消防司令長 米澤 太志
- 姫路市消防局 消防司令 阿曾 正登
- 神戸市消防局 消防司令 井上 雅文
- 尼崎市消防局 消防司令 河本 敏彦
- 西宮市消防局 消防司令 木下 修
- 小野市消防本部 消防司令 近都 登志人
- 尼崎市消防局 消防司令 倉本 博幸
- 姫路市消防局 消防司令 後藤 義明
- 南但消防本部 消防司令 笹谷 信之
- 神戸市消防局 消防司令 谷内 稔
- 篠山市消防本部 消防司令 谷田 重樹
- 高砂市消防本部 消防司令 釣本 幹二
- 西はりま消防本部 消防司令 中田 泰三
- 尼崎市消防局 消防司令 中村 恵亮
- 美方広域消防本部 消防司令 野田 幸雄
- 姫路市消防局 消防司令 延賀 慎一
- 芦屋市消防本部 消防司令 前村 佳
- 神戸市消防局 消防司令 松本 茂
- 猪名川町消防本部 消防司令 向井 文雄
- 西はりま消防本部 消防司令 山田 幸雄
- 尼崎市消防局 消防司令 横山 勝宏
- 神戸市消防局 消防司令 植松 建至
- 神戸市消防局 消防司令 幸山 司
- 神戸市消防局 消防司令 末吉 秀喜
- 神戸市消防局 消防司令 高崎 博幸
- 神戸市消防局 消防司令 満尾 勝徳
- 神戸市消防局 消防司令 山根 博
- 神戸市消防局 消防司令 山本 昌宏
- 神戸市消防局 消防司令 脇田 裕之
- 神戸市消防局 消防司令 山下 直樹
- 神戸市西消防団 団長 石井 邦夫
- 佐用町消防団 副団長 井上 祥一
- 宍粟市消防団 副団長 金本 己世始
- 小野市消防団 副団長 久語 勝之
- 豊岡市豊岡消防団 副団長 鞍留 眞司
- 淡路市消防団 副団長 近藤 敏延
- たつの市消防団 副団長 田口 博文
- 篠山市消防団 副団長 田中 一裕
- 神戸市西消防団 副団長 谷口 順治
- 朝来市消防団 副団長 谷口 孝博
- 豊岡市出石消防団 副団長 谷原 範昭
- 姫路市網干消防団 副団長 玉谷 章二郎
- 神戸市西消防団 副団長 戸田 陽生
- 朝来市消防団 副団長 戸田 正則
- 神戸市北消防団 副団長 仲井 博司
- 豊岡市豊岡消防団 副団長 中村 正義
- 稲美町消防団 副団長 中本 有馬
- 淡路市消防団 副団長 西濱 克己
- 西宮市消防団 副団長 西本 一弘
- 南あわじ市消防団 副団長 波戸崎 直弘
- 加西市消防団 副団長 深田 哲也
- 西脇市消防団 副団長 宮崎 春貴
- 神戸市北消防団 副団長 村田 薫
- 相生市消防団 副団長 山本 晃
- 多可町消防団 副団長 吉田 耕治
- 神戸市北消防団 副団長 吉本 幸司
- 赤穂市消防団 副団長 栗井 俊明
- 伊丹市消防団 分団長 石橋 宏己
- 芦屋市消防団 分団長 石原 勝実
- 淡路市消防団 分団長 大木 隆司
- 加東市消防団 分団長 大橋 睦生
- 姫路市飾磨消防団 分団長 岡田 雅博
- 加古川市消防団 分団長 鎌田 光男
- 姫路市姫路西消防団 分団長 北村 晋策
- 養父市消防団 分団長 日下部 正春
- 尼崎市消防団 分団長 心石 一馬
- 新温泉町消防団 分団長 坂本 良治
- 加古川市消防団 分団長 澁谷 勇
- 高砂市消防団 分団長 杉田 住夫
- 養父市消防団 分団長 田村 義文
- 赤穂市消防団 分団長 富田 義則
- 香美町消防団 分団長 中村 寛司
- 猪名川町消防団 分団長 西田 啓治
- 姫路市姫路西消防団 分団長 長谷川 一信
- 三田市消防団 分団長 東良 容二
- 相生市消防団 分団長 廣瀬 茂男
- 尼崎市消防団 分団長 前田 昌昭
- 養父市消防団 分団長 村上 洋一
- 西宮市消防団 分団長 森本 安雄
- 洲本市消防団 分団長 山本 勝利
- 尼崎市消防団 分団長 横山 健二
- 西宮市消防団 分団長 吉田 和夫
- 明石市消防団 副分団長 岸 数彦
- 高砂市消防団 副分団長 八田 克美
- 香美町消防団 副分団長 上治 紀仁
- 太子町消防団 副分団長 榮藤 雅雄
- 三木市消防団 副分団長 岸本 久人
- 川西市消防団 副分団長 中西 貞
- 宝塚市消防団 副分団長 二井 久和
- 川西市消防団 副分団長 前西 肇

- 神戸市消防局 消防司令 谷内 稔
- 篠山市消防本部 消防司令 谷田 重樹
- 高砂市消防本部 消防司令 釣本 幹二
- 西はりま消防本部 消防司令 中田 泰三
- 尼崎市消防局 消防司令 中村 恵亮
- 美方広域消防本部 消防司令 野田 幸雄
- 姫路市消防局 消防司令 延賀 慎一
- 芦屋市消防本部 消防司令 前村 佳
- 神戸市消防局 消防司令 松本 茂
- 猪名川町消防本部 消防司令 向井 文雄
- 西はりま消防本部 消防司令 山田 幸雄
- 尼崎市消防局 消防司令 横山 勝宏
- 神戸市消防局 消防司令 植松 建至
- 神戸市消防局 消防司令 幸山 司
- 神戸市消防局 消防司令 末吉 秀喜
- 神戸市消防局 消防司令 高崎 博幸
- 神戸市消防局 消防司令 満尾 勝徳
- 神戸市消防局 消防司令 山根 博
- 神戸市消防局 消防司令 山本 昌宏
- 神戸市消防局 消防司令 脇田 裕之
- 神戸市消防局 消防司令 山下 直樹
- 神戸市西消防団 団長 石井 邦夫
- 佐用町消防団 副団長 井上 祥一
- 宍粟市消防団 副団長 金本 己世始
- 小野市消防団 副団長 久語 勝之
- 豊岡市豊岡消防団 副団長 鞍留 眞司
- 淡路市消防団 副団長 近藤 敏延
- たつの市消防団 副団長 田口 博文
- 篠山市消防団 副団長 田中 一裕
- 神戸市西消防団 副団長 谷口 順治
- 朝来市消防団 副団長 谷口 孝博
- 豊岡市出石消防団 副団長 谷原 範昭
- 姫路市網干消防団 副団長 玉谷 章二郎
- 神戸市西消防団 副団長 戸田 陽生
- 朝来市消防団 副団長 戸田 正則
- 神戸市北消防団 副団長 仲井 博司
- 豊岡市豊岡消防団 副団長 中村 正義
- 稲美町消防団 副団長 中本 有馬
- 淡路市消防団 副団長 西濱 克己
- 西宮市消防団 副団長 西本 一弘
- 南あわじ市消防団 副団長 波戸崎 直弘
- 加西市消防団 副団長 深田 哲也
- 西脇市消防団 副団長 宮崎 春貴
- 神戸市北消防団 副団長 村田 薫
- 相生市消防団 副団長 山本 晃
- 多可町消防団 副団長 吉田 耕治
- 神戸市北消防団 副団長 吉本 幸司
- 赤穂市消防団 副団長 栗井 俊明
- 伊丹市消防団 分団長 石橋 宏己
- 芦屋市消防団 分団長 石原 勝実
- 淡路市消防団 分団長 大木 隆司
- 加東市消防団 分団長 大橋 睦生
- 姫路市飾磨消防団 分団長 岡田 雅博
- 加古川市消防団 分団長 鎌田 光男
- 姫路市姫路西消防団 分団長 北村 晋策
- 養父市消防団 分団長 日下部 正春
- 尼崎市消防団 分団長 心石 一馬
- 新温泉町消防団 分団長 坂本 良治
- 加古川市消防団 分団長 澁谷 勇
- 高砂市消防団 分団長 杉田 住夫
- 養父市消防団 分団長 田村 義文
- 赤穂市消防団 分団長 富田 義則
- 香美町消防団 分団長 中村 寛司
- 猪名川町消防団 分団長 西田 啓治
- 姫路市姫路西消防団 分団長 長谷川 一信
- 三田市消防団 分団長 東良 容二
- 相生市消防団 分団長 廣瀬 茂男
- 尼崎市消防団 分団長 前田 昌昭
- 養父市消防団 分団長 村上 洋一
- 西宮市消防団 分団長 森本 安雄
- 洲本市消防団 分団長 山本 勝利
- 尼崎市消防団 分団長 横山 健二
- 西宮市消防団 分団長 吉田 和夫
- 明石市消防団 副分団長 岸 数彦
- 高砂市消防団 副分団長 八田 克美
- 香美町消防団 副分団長 上治 紀仁
- 太子町消防団 副分団長 榮藤 雅雄
- 三木市消防団 副分団長 岸本 久人
- 川西市消防団 副分団長 中西 貞
- 宝塚市消防団 副分団長 二井 久和
- 川西市消防団 副分団長 前西 肇

- 小野市消防団 副団長 久語 勝之
- 豊岡市豊岡消防団 副団長 鞍留 眞司
- 淡路市消防団 副団長 近藤 敏延
- たつの市消防団 副団長 田口 博文
- 篠山市消防団 副団長 田中 一裕
- 神戸市西消防団 副団長 谷口 順治
- 朝来市消防団 副団長 谷口 孝博
- 豊岡市出石消防団 副団長 谷原 範昭
- 姫路市網干消防団 副団長 玉谷 章二郎
- 神戸市西消防団 副団長 戸田 陽生
- 朝来市消防団 副団長 戸田 正則
- 神戸市北消防団 副団長 仲井 博司
- 豊岡市豊岡消防団 副団長 中村 正義
- 稲美町消防団 副団長 中本 有馬
- 淡路市消防団 副団長 西濱 克己
- 西宮市消防団 副団長 西本 一弘
- 南あわじ市消防団 副団長 波戸崎 直弘
- 加西市消防団 副団長 深田 哲也
- 西脇市消防団 副団長 宮崎 春貴
- 神戸市北消防団 副団長 村田 薫
- 相生市消防団 副団長 山本 晃
- 多可町消防団 副団長 吉田 耕治
- 神戸市北消防団 副団長 吉本 幸司
- 赤穂市消防団 副団長 栗井 俊明
- 伊丹市消防団 分団長 石橋 宏己
- 芦屋市消防団 分団長 石原 勝実
- 淡路市消防団 分団長 大木 隆司
- 加東市消防団 分団長 大橋 睦生
- 姫路市飾磨消防団 分団長 岡田 雅博
- 加古川市消防団 分団長 鎌田 光男
- 姫路市姫路西消防団 分団長 北村 晋策
- 養父市消防団 分団長 日下部 正春
- 尼崎市消防団 分団長 心石 一馬
- 新温泉町消防団 分団長 坂本 良治
- 加古川市消防団 分団長 澁谷 勇
- 高砂市消防団 分団長 杉田 住夫
- 養父市消防団 分団長 田村 義文
- 赤穂市消防団 分団長 富田 義則
- 香美町消防団 分団長 中村 寛司
- 猪名川町消防団 分団長 西田 啓治
- 姫路市姫路西消防団 分団長 長谷川 一信
- 三田市消防団 分団長 東良 容二
- 相生市消防団 分団長 廣瀬 茂男
- 尼崎市消防団 分団長 前田 昌昭
- 養父市消防団 分団長 村上 洋一
- 西宮市消防団 分団長 森本 安雄
- 洲本市消防団 分団長 山本 勝利
- 尼崎市消防団 分団長 横山 健二
- 西宮市消防団 分団長 吉田 和夫
- 明石市消防団 副分団長 岸 数彦
- 高砂市消防団 副分団長 八田 克美
- 香美町消防団 副分団長 上治 紀仁
- 太子町消防団 副分団長 榮藤 雅雄
- 三木市消防団 副分団長 岸本 久人
- 川西市消防団 副分団長 中西 貞
- 宝塚市消防団 副分団長 二井 久和
- 川西市消防団 副分団長 前西 肇

- 伊丹市消防団 分団長 石橋 宏己
- 芦屋市消防団 分団長 石原 勝実
- 淡路市消防団 分団長 大木 隆司
- 加東市消防団 分団長 大橋 睦生
- 姫路市飾磨消防団 分団長 岡田 雅博
- 加古川市消防団 分団長 鎌田 光男
- 姫路市姫路西消防団 分団長 北村 晋策
- 養父市消防団 分団長 日下部 正春
- 尼崎市消防団 分団長 心石 一馬
- 新温泉町消防団 分団長 坂本 良治
- 加古川市消防団 分団長 澁谷 勇
- 高砂市消防団 分団長 杉田 住夫
- 養父市消防団 分団長 田村 義文
- 赤穂市消防団 分団長 富田 義則
- 香美町消防団 分団長 中村 寛司
- 猪名川町消防団 分団長 西田 啓治
- 姫路市姫路西消防団 分団長 長谷川 一信
- 三田市消防団 分団長 東良 容二
- 相生市消防団 分団長 廣瀬 茂男
- 尼崎市消防団 分団長 前田 昌昭
- 養父市消防団 分団長 村上 洋一
- 西宮市消防団 分団長 森本 安雄
- 洲本市消防団 分団長 山本 勝利
- 尼崎市消防団 分団長 横山 健二
- 西宮市消防団 分団長 吉田 和夫
- 明石市消防団 副分団長 岸 数彦
- 高砂市消防団 副分団長 八田 克美
- 香美町消防団 副分団長 上治 紀仁
- 太子町消防団 副分団長 榮藤 雅雄
- 三木市消防団 副分団長 岸本 久人
- 川西市消防団 副分団長 中西 貞
- 宝塚市消防団 副分団長 二井 久和
- 川西市消防団 副分団長 前西 肇



受章者の皆様

- 西宮市消防団 分団長 吉田 和夫
- 明石市消防団 副分団長 岸 数彦
- 高砂市消防団 副分団長 八田 克美
- 香美町消防団 副分団長 上治 紀仁
- 太子町消防団 副分団長 榮藤 雅雄
- 三木市消防団 副分団長 岸本 久人
- 川西市消防団 副分団長 中西 貞
- 宝塚市消防団 副分団長 二井 久和
- 川西市消防団 副分団長 前西 肇

第22回全国女性消防操法大会の開催

南あわじ市消防団なでしこ分団、「優良賞」受賞！



平成二十七年一月一日(木)、神奈川県横浜市において、第二二回全国女性消防操法大会が開催され約三八〇〇人が参加しました。本大会は、女性消防隊の消防技術向上と士気の高揚を図り、地域における消防活動の充実に寄与することを目的として隔年で開催されています。各都道府県の代表四六隊(茨城県は関東・東北豪雨により出場を辞退)が、日頃から訓練を重ね、安全、確実、かつ迅速に行動するために、軽可搬ポンプの基本操作技術等を競います。

兵庫県からは、南あわじ市女性消防隊(南あわじ市消防団なでしこ分団)が代表として出場しました。選手は、「これまで応援してくれた多くの人の期待に応えたい」また、「苦しかった練習の成果を十分に発揮したい」という思いの中、大変緊張されましたが、応援団に励まされながら競技した結果、見事自己ベストタイムを更新して「優良賞」受賞！大いに活躍されました。チームの皆様は緊張がとけたのと、これまでのいろいろな思いが溢れ互いに感動を分かち合っていました。

また、競技終了後、宮城県大和町消防団、東京都西東京市消防団、新宿消防団、および三重県桑名市消防団の女性消防団員により、防災指導の訓練展示が行われました。

今回全国大会に出場された南あわじ市消防団なでしこ分団の皆様、改めてお疲れさまでした。また、応援者や各種サポートをいただいた関係者の皆様もお疲れさまでした。

大会日時及び場所
 日時：平成二十七年
 一月十五(木)
 九時三〇分～
 一五時二〇分
 場所：横浜市
 消防訓練センター

大会結果

- 優勝 福岡県福岡市 早良女性消防隊
- 準優勝 山口県 下関市女性消防隊
- 準優勝 栃木県 小山市女性消防隊
- 優秀賞 埼玉県 鴻巣市女性消防隊
- 優秀賞 富山県 小矢部市女性消防隊
- 優秀賞 長崎県 佐世保市女性消防隊
- 優良賞 兵庫県南あわじ市 女性消防隊
- 優良賞 山梨県 甲州市女性消防隊
- 優良賞 佐賀県 嬉野市女性消防隊
- 優良賞 岐阜県 七宗町女性消防隊
- 優良賞 広島県 東広島市女性消防隊
- 優良賞 京都府京都市 左京女性消防隊



消防団入団促進 キャンペーン 実施中！

消防団は、「自分たちの地域は自分たちで守る」という郷土愛護の精神に基づき、災害時の消火活動はもとより、防火防災指導や啓発活動など、地域防災力の要として幅広い活動を行っています。

消防団は、地域住民の安心安全を確保するために欠かすことができない組織ですが、社会環境の変化により消防団員数は減少しており、地域防災力の低下が懸念されています。

消防庁は、消防団員の減少に歯止めをかけるため、入団時期の一月から三月を「消防団員入団促進キャンペーン」の時期と位置づけ、消防団員募集についての広報の全国的な展開を図っています。

消防団員には、サラリーマン・学生・主婦の方など、年齢・性別・職業を問わず色々な方が参加されており、最近では女性の方も多く参加され活躍されています。

あなたも消防団に入団し、地域防災力向上に貢献してみませんか？

さあ、自分の街のこと。

あなたにも
できることがあります

消防団員募集

http://www.kita.go.jp/kyotodome/

守りたい家業、つながる未来がある。



平成二七年度第二回 女性消防団員技術研修会

(公財) 兵庫県消防協会

平成二八年二月一三日
(土) 兵庫県消防学校にて今年度二回目の女性消防団員技術研修会が開催され、県内から一〇名の女性消防団員が参加しました。

この度の研修は、三角巾法、礼式訓練そして女性消防操法という内容で開催しました。

まず午前中に、三角巾法及び礼式訓練について、消防学



礼式の指導の様子

校の教官方にご指導いただきました。三角巾法も礼式訓練も、参加者にとっては、頻りに練習する機会がないので、忘れていた部分も多く、とても良い機会になったようです。教官方が丁寧に指導してくださり、皆よく理解できたと大好評で、もっと学びたいという感想が多々ありました。

午後からは南あわじ市消防

団の皆さまから女性消防操法を指導していただきました。

南あわじ市消防団は、今年度の全国女性消防操法大会で七位という好成績を修め、研修会での操法披露も、流石の一言でした。大人数の参加者にも関わらず、研修内容も、皆が取り組める内容になっており、ポンプ操作や足あわせ、ホース巻き、ロープ結索など、盛りだくさんの内容でした。さらに、同じ女性団員から指導を受けることで、身近に感じることができ、疑問点なども聞きやすかったそうです。参加者にとっては、ほぼ初めての内容ばかりですが、南あわじ市さんの丁寧なお陰で、皆が楽しく学ぶことができました。参加者の皆さんは、休憩も取らず、熱心に取り組んでおられました。

研修会後のアンケートでは、参加消防団員の皆さまから、様々な感想やご意見を頂戴しました。中でも今後の研修会については、実技・意見交換・市民への防災指導等に直結する内容を希望される声が多く、県消防協会として、そのような貴重な要望を踏まえ、女性消防団員の皆さんが活動する上での指針を得ていただけるような研修会を



敬礼!

開催したいと考えております。

今後とも積極的なご参加をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本研修会にご協力くださった、南あわじ市消防団の皆さま、そして上り口センター長をはじめ県消防学校教官の皆さま、本当にありがとうございます。

この度の研修会参加消防団は次のとおり。

- ・神戸市灘消防団
- ・神戸市中央消防団
- ・神戸市北消防団道場支団
- ・神戸市北消防団淡河支団
- ・神戸市北消防団有馬支団
- ・神戸市長田消防団

- ・神戸市兵庫消防団
- ・姫路市飾磨消防団
- ・尼崎市消防団
- ・明石市消防団
- ・芦屋市消防団
- ・伊丹市消防団
- ・加古川市消防団
- ・赤穂市消防団
- ・宝塚市消防団
- ・三木市消防団
- ・川西市消防団
- ・小野市消防団
- ・三田市消防団
- ・丹波市消防団
- ・南あわじ市消防団
- ・淡路市消防団
- ・播磨町消防団
- ・佐用町消防団

※上記参加者他、県内消防本部職員・市町防災担当職員等四四名



教官の指導を真剣に聞いている女性消防団員の皆さん



教官に見守られながら実践中



教官から丁寧な指導を受けます



ロープ結索実践中



ホース巻き練習中



ポンプをくりりと回します



『平成二七年度の新たな取組みについて』

洲本市消防団

1 分団合同訓練

多種多様な災害に対応できるように分団間で連携し、団員の技術向上と士気高揚を図ること等を目的として、分団合同訓練を実施しました。洲本市内には一六分団配置されているため、地理的条件等を考慮して一六分団を六ブロックに分け、それぞれの合同分団で災害想定を立て、訓練内容を企画立案のうえ実施しました。それぞれの訓練内容ですが、五つの合同分団が林野火災等の大規模火災を想定した中継送水訓練を実施しました。残り一つの合同分団が大規模地震後の救助活動等を想定し、洲本消防署員の協力を得て、止血法や簡易担架での搬出等の応急手当てについて学習し、

2 消防団活動のPR

消防団活動のPRや団員募集チラシの配布、火災予防の啓発等を目的として、団長をはじめとする団本部役員が平成二五年度から各種行事で消防団ブースを設置してきました。また、団本部役員に加えて平成二六年度から任用を開



分団合同訓練の様子



始した女性消防団員が消防団ブース等の運営に携わり、内容についても拡充させてきました。この活動をより積極的に展開するために、平成二七年度は新たに堀端筋が歩行者天国となり、多くの飲食店などが出店し、淡路島内外から多くの方で賑う「洲本arukanka」においても出店しました。



「洲本arukanka」の様子

また、昨年一〇月二四日(土)には、洲本市内全世帯を対象として、女性消防団員の意見を取り入れた団員募集チラシを作成し、新聞に折り込みました。これらの活動を通じて、多くの市民へ消防団活動をPRすることができ、また、団員を募集している旨、周知することができました。毎年、ブースの内容を充実させており、子供用防火衣の試着や防災マスコットであるはたん

『地域の安全・安心をめざして』

宍粟市消防団



災害に備えて!

宍粟市消防団は、旧宍粟郡山崎町、一宮町、波賀町及び千種町の四町合併に伴い、平成二二年四月一日に発足しました。旧町を単位とする支団制を活動の基本とし、現在、四支団三〇分団一一部、団

の登場など、身近に消防団を感じていただけたものと考えております。

員数一六三五名により消防団活動を行っています。近年、宍粟市における火災件数は減少傾向にあります。これは、日頃の防火広報や火災予防期間における防火パレードなど、地域住民の防火意識の向上に向けた取組みの成果であるといえます。

一方で、台風や局地的豪雨など自然災害における水防及び警戒活動や人命捜索活動など、消防団に求められる任務は多様化しており、日々それらに対応していくための訓練を実施しています。

◆水防訓練

毎年、出水期を迎える時期に、警察署・消防署と連携して水防訓練を実施しています。平成二二年の台風九号による豪雨災害の教訓から、水防活動に対する消防団の意識は特に高まっており、実際の災害を想定した中での訓練に積極的に取り組んでいます。また、市が実施する総合防災訓練においては、地域で結成されている自主防災組織と連携した水防訓練などに取り組んでいます。

◆放水訓練

県下で二番目の面積を有する宍粟市は、山間部に家屋が点在しているところが多く、消防水利に乏しい状況となっています。このことから、有事の際に被害が拡大することが懸念されるため、分団単位において、実際の火災発生を想定した中継送水訓練を実施しています。

また、市内には国指定の重要文化財があり、文化財建物の火災発生を想定した放水訓練を消防署と連携して実施するなど、まちの財産を守るために、日々訓練に精進しています。

◆消防団員応援事業

宍粟市の人口は減少傾向にある中で、若者の市外流出により消防団員も減少しており、団員の確保が課題となっていま



まちの財産を守ります!

す。このような中、若い消防団員の地元定着と消防団のPRを兼ねた市独自の取組みとして、今年度から消防団員を限定とした「婚活イベント」が実施されています。これまで三回のイベントが実施され、市内外から多数の女性に参加していただく中、計一七組のカップルが成立し、一組は結婚に至っています。今後継続して実施される予定となっており、この取組みを契機に消防団への理解とあわせて団員の確保に繋がっていきます。



消防団を応援します!

みんなで大切な「まち」や「家族」を守りませんか

◆消防団員募集中◆

洲本市消防団では、平成26年4月1日から女性消防団員を任用しており、男女を問わず消防活動に興味があります。私たちと共に、大切な「まち」や「家族」を守りませんか?消防活動に興味・関心がある方は、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

- 入団資格
 - ①洲本市内に居住し、又は、勤務している方。
 - ②健康で、年齢満16歳以上の方。
 - ③②の条件を全て満たしている方。
- 募集期間
 - 随時、募集しています。
 - 但し、定員に達した時点で、募集を締め切ります。
- 勤務条件など
 - ①消防団員は、非常勤特別職の地方公務員です。
 - ②洲本市消防団条例に基づき、年報酬・手当てを支給します。
 - ③消防活動に必要な活動経費などは支給します。
 - ④心臓異常者、脳障害者など、の制限があります。
- 主な活動内容
 - 男性消防団員
 - 火災活動、災害発生時の避難誘導(救出活動)、まつりの警戒活動、出初式、訓練等
 - 女性消防団員
 - 火災予防の啓発活動、消防団行軍での家屋補助、高齢者等の見守り活動

お知らせ ご来場お待ちしております!

洲本市消防団 消防団員募集展示会

日時:平成27年11月1日(日)午前10時15分~11時30分
 (11時30分以降は中心に受付による相談を行います。)

会場:防災会館(洲本市消防団本部)

内容:消防車・消防ポンプ車等の展示、消防団員体験、子ども用防火衣の試着、防災マスコットによる防災訓練など

連絡先
 〒695-8686
 洲本市本町三丁目4番10号
 洲本市消防団本部
 (洲本市消防団本部 消防団員募集係内)
 Tel:0799-24-7623
 Mail:shoubou@city.sumoto.lg.jp

団員募集チラシ

わが町の団長さん

「市民の安全を守る」

相生市消防団

釜地 英雄



相生市は、兵庫県の島嶼部を除いた地域の南西部に位置する市で、北部には三濃山、東部には天下台山、西部には宮山等を含め、市の周辺は高い山に覆われています。

南部には、瀬戸内海の中でも深く入り組んだ相生湾があり、万葉の岬こと金ヶ崎や、遠見山公園から眺望することが出来る市であります。

相生市消防団は、昭和二九年に発足し、昭和三四年、平成一六年の機構改革を経て、現在一団、一五ヶ分団、五二〇名の団員により、市民が安心・安全に暮らせる街づくりを目指して、日夜活動しています。

釜地団長は、昭和五二年に入団し、分団長、副団長を歴任し平成二七年一〇月に団長に就きました。

ここだけの話ですが、釜地団長は平成二七年一〇月に団

長に就任いたしました。消防団長就任時の挨拶が「私がなぜ団長としてここに立っているのか。急に団長職に就いて、団長としてできるのか。」と不安を漏らしてしま

した。その言葉を聞いた時は不安がありました。いざ団長として職務を全うしていくと、会議においては、役員の意見を聞きつつ最後には方向性を決め、事務局が迷い尋ねると、迷うことなく指示し、決断力ある団長です。

団長就任後は幸いに大きな災害もありませんが、もし災害発生時には、消防団員の頂点としての確かな判断・指示・決断力に基づいて行動されることと期待しております。 昨今、若者減少等による団員確保や、防災における消防団に期待される新たな役割等、

消防団を取り巻く環境は常に変化しています。その柔軟な発想と思考で、時代のニーズに即した消防団へと導いてくれると期待する頼もしい団長です。



われら 若手消防団員

～消防団に入団して～

播磨町消防団 宮北分団 浅原 重典



私は、平成二四年四月に消防団に入団し、現在、分団長を務めさせていただいています。入団のきっかけは、同じ職場の先輩から声をかけていただいたことでした。消防団という組織をわかつていなかったため、いざ火災や災害が発生した際には自分何ができるのか、不安でいっぱいでした。

また、私が所属する分団は若手団員が少なく、初めて月に一度行っている車両点検に参加したとき、人間関係が心配ですごく緊張したことを覚えています。

現在では、操法大会や年末警戒等の様々な訓練、火災現場への出動を経験し、団員や地域の方と親しくなりました。日々の生活を有意義にすごしていますが、夜寝ていてサイレンの音が鳴ると不安な気分になります。

どこの消防団も人員の確保が難しく、私達もそれぞれの仕事をもちながら、限られた人数でのなかで、地域の

住民を守るため活動していかねばなりません。今後、私達をとりまく環境は厳しくなっていくと思いますが、一人ひとりが「消防団」という誇りを持ち、これからも消防団活動を頑張っていきたいと思います。



がんばってます、女性消防団員

『伊丹市消防団に吹く新たな風!』

伊丹市消防団

伊丹市消防団は、一本部六分団一〇三名で、そのうち平成二六年一〇月一日に誕生した本市初となる女性消防団員七名が、本部付として活動しています。

入団式では、岸谷団長から辞令を交付され、緊張した面持ちで、これから始まる消防団活動に期待と少しの不安が入り混じっているようでした。

「一年後、応急手当の指導ができるようになる」という目標を掲げ、半年後に七名全員が応急手当普及員の資格を取得し、消防局が実施する普通救命講習で指導補助にあたるなど、着実に知識と技術の向上に努めてきました。

女性消防団員は向上心が非常に高く、積極的に消防団活動に取り組んでおり、その活動内容に男性消防団員は「負けてられへん!」と近隣分団と合同で訓練を実施するなど、いい刺激となり、消防団全体の活性化に大きく貢献しています。

今年度は、秋の火災予防週間の

における大型ショッピングセンターでの火災予防広報活動や市内小学校区自主防災会合同防災訓練に参加し、応急手当の指導補助を行っています。また、兵庫県下女性消防団員技術研修会や全国女性消防団員活性化大会にも参加し、先進的に取り組まれている消防団の方々と意見交換することで、伊丹市女性消防団員ならではの活動ができるよう、決意を新たにされており、今後伊丹市消防団の更なる発展につなげていただきたいと思います。



入団式より

地域のお知らせ

加東市

住みよいまち「かとう」

加東市は、県中央部や南寄りに位置する、美しい自然豊かな文化、あたたかな人々を誇る、活力あふれるまちです。

鬼追踊で知られる国宝朝光寺本堂をはじめとした史跡、清流加古川や東条湖(鴨川ダム)の景観は、訪れる人々を癒し、魅了します。

また、酒米の王者・山田錦、全国九割のシェアを誇る釣り針、鯉のぼりやひな人形などの多彩な特産品には、伝統の技が受け継がれています。

これらの歴史や伝統、自然を大切にしながら、快適な住環境整備と産業基盤充実を進める加東市のまちづくりは内外で高く評価されており、『住みよきランキング2015(関東洋経済新報社)』では、快適度県内首位(全国二位)を獲得しています。快適度は、生活に欠かせない公園や下水道といった公共施設の整備状況や、新しい住宅、また新しく住む人が増えているかどうかが反映されています。これは、まちの「住みよさ」と「発展」に欠かせない要素であり、まちの将来性を示す指標であるともいえます。

ここで、加東市のお勧めスポットをいくつかご紹介します。活力と魅力あふれる加東市は、健康的で楽しい休日を通り越せるまちでもあります。みなさまお誘いあわせのうえ、

ぜひお越しいただき、加東市の魅力をお楽しみいただければ幸いです。

闘竜灘

清流加古川の川底いっぱい、奇岩が起伏する加東の名勝。飛び鯉の名所としても有名で、毎年五月一日には、日本一早く鮎漁が解禁されます。



鮎解禁

平池公園

二〇〇〇年の眠りから目覚めた「大賀ハス」のほか、約一二〇種類もの水生植物を無料でご覧いただける公園です。水生植物のほかにも、梅・桜・花菖蒲といった四季折々の花が楽しめます。

朝光寺

室町時代初期の建築で、国宝に指定されている本堂に加え、鐘楼(国指定重要文化財)、多宝塔(県指定文化財)など、歴史ロマンに触れ



平池大賀ハス

られる名所です。土・日・祝日には加東市観光ボランティアのみなさんが常駐しており、ガイドを受けられます。また、毎年五月五日には、県指定無形民俗文化財の鬼追踊が奉納されています。

桜

市木に桜を指定している加東市には、桜の名所もたくさんあります。東条川の桜並木は、旧市役所東条庁舎から下流五・五キロメートルの両岸に約九五〇本のソメイヨシノがあり、西日本最大級の桜並木として人気を呼んでいます。そのほか、播磨中央公園、千鳥川桜堤公園など、地域に誇る名所が多く、時季になると大勢の花見客で賑わいます。

酒米の王者「山田錦」

酒米の王者とも呼ばれる山田錦は、八〇年前、加東市の農業研究施設で誕生しました。毎年秋には、加東市産山田錦を使用している酒造会社が集まる日本酒好きのためのイベント「山田錦乾杯まつり」を開催しています。



東条川の桜堤

日本民俗学の父・柳田國男のふるさと

神崎郡福崎町



柳田國男生家

柳田國男の生家は「日本一小さい家」

山陰と山陽を結ぶ但馬街道沿いにあり、現在は、播但連絡道路、JR播但線と中国自動車道が交差する交通の要衝・福崎町。市川が縦断するのどかな町は、日本民俗学の父・柳田國男のふるさとです。

明治八(一八七五)年、現在の福崎町(神東郡辻川村)で松岡家の八人兄弟の六男として生まれた國男(後に柳田家の婿養子となる)。東京帝大から農商務省の役人になったが早くに退官してからは、以前から関心を深めていた民間伝承などを集めて全国を旅し、日本民俗学の礎を築きました。その業績によって文化勲章、福崎町名誉町民第一号などを受けています。彼の回想記である『故郷七〇年』に「日本一小さい家」と記した生家を、今も見ることが出来ます。

町並みを見下ろす山腹、國男が幼少期によく遊んだ鈴ノ森神社のそばに、小さな茅葺きの家が建つ。もとは辻川の街道沿いにあったが、昭和四九年に移築・復元されたもの(県指定文化財)。三畳が二間、四畳が二間の田の字型で、日本民家の原形態だとか。子だくさんの大家族がどうやって暮らしていたのか現代では想像し難いサイズですが、この「小ささ」が彼を民俗学へと目覚めさせたというのです。

驚異の松岡五兄弟を顕彰して

柳田國男生家の隣に建つ町立柳田國男・松岡家記念館を訪ねると、松岡家の成人した五兄弟(他の三人は早世)全員がそれぞれの才能を開花させ大成していることがわかります。



柳田國男・松岡家記念館

長男・鼎(かなえ)は小学校校長から医師、郡会議員など、三男井上通泰は眼科医、歌人、貴族院議員、七男静雄は海軍大佐、言語学・民俗学者、八男輝夫(映丘)は日本画家、(現)東京芸術大教授など。どうすればこのような傑出した人物ばかりに育つのか、同記念館で、柳田國男の直筆原稿、名人の作品などを眺めながら考えてみてください。生家、記念館とも見学無料。

地域を見守ってきた大庄屋の遺産

福崎で、柳田國男との関わりからも、史的文化財としても見逃せないのが大庄屋三木家住宅です。江戸時代に姫路藩の大庄屋として地域の政治・文化に大きく貢献したという。瓦屋根の長い土塀に囲



大庄屋三木家住宅

まれた大きな屋敷が残っています(県指定文化財)。國男は、一〇(一一)歳の頃、父の親友であった三木家に一年ほど預けられ、膨大な蔵書を好き放題に読ませてもらえた。また当主の息子は彼と同年輩で、生涯を通して友情が結ばれるなど國男の人生に深い影響を与えた一家です。

しかし三〇〇年余りを経た家屋は老朽化が進み、現在、保存修理工事中。そのため屋敷には入れませんが、辻川界限観光ボランティアガイドに申し込むと裏庭からの見学ができます。

編集後記

日増しに暖かさを感じられるようになりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今月号では、日本消防協会定例表彰、平成二七年度消防功労者表彰庁長官表彰式について掲載しております。受章された皆様誠に御めでとうございます。

今月号で平成二七年度の兵庫消防は最終号となりました。来年度も紙面の充実に向けてまいりたいと思っておりますので、今後も「兵庫消防」のご愛読のほどよろしく願います。

